市民公益活動団体支援広報紙の企画構成について

1 企画の趣旨

自ら横須賀の課題と向き合う市民公益活動団体(以下、「公益団体」)の悩みの解決に繋がる広報紙を発行することで、公益団体が生き生きと活動できる環境づくりをする。

手に取った人に市民公益活動・市民協働をもっと身近に感じてもらい、地域の現場や人々の取り組み、若者の目線、異分野とのコラボレーションなど、多様な立場の声を届け、「参加したい」「応援したい」と思えるきっかけづくりを目指す。

2 広報紙タイトル案

- YOKO l l a b o r a t i o n (ヨコラボレーション:略称ヨコラボ)
 ヨコスカ+コラボレーション (collaboration:協働)
- YOKO t o P I (ヨコトピ)
 ヨコスカ to public interest(公益)
- 協働への道
 目立たずとも、ひたむきに活動が続けている(=団体が歩んできた道)
- Y o k o s u k a L i n k (ヨコスカリンク)
 つながりやネットワークのイメージで市民協働を表現

3 特徴

(1) 市民活動サポートセンターで発行する情報紙との棲み分け

	市民活動サポートセンター発行の情報紙	市民公益活動団体支援広報紙
	のたろん通信(A4/2頁:2,700部 毎月)	(A4/6頁:12,000部 年2回)
掲載内容・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・市民公益活動に関する情報の提供※ ・市民公益活動行事等の情報提供※ (※指定管理業務) ・市民活動サポートセンターの登録団体からの情報を基に紙面を構成し、団体の情報発信の一助となる、また、センターや行政からの情報を掲載し、市民が市民活動をする際の情報収集に役立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民公益活動団体の魅力の発信 ・行政が行う支援制度の魅力を解説 ・「人」にスポットをあてた、インタビュー記事の掲載 ・各号ごとにテーマ性がある ・市民公益活動・市民協働を身近に感じてもらい、共感から、「参加したい」「応援したい」市民を増やす。
団体	市民活動サポートセンター登録団体	市民協働審議会において審査を行った団体(市民協働推進補助金、モデル事業)や、よこすか元気ファンド登録団体、条例指定や認定NPO法人
特徴	団体の情報、イベント告知等	市民公益活動団体や支援制度の魅力

(2) 紙面コンセプト

活動者の人となりが見え、読んだ後に何か行動したくなる、**参加型広報紙**

- ・写真や親しみやすいイラストを多く使用し、力を抜いて読める。
- ・「人」にスポットをあて、共感や応援したい気持ちを引き起こす。
- ・何か始めたいと思った時に、支援制度の解説がある。

(3) 掲載コーナー案 (予定)

- ①このまちの主役たち (インタビュー、1 団体)
- ②STAGE—このまちの舞台裏— (インタビュー、3 団体)
- ③クローズアップ! (今注目の行政の支援制度など)
- ④知ってる?横須賀のヒト・モノ・コト (地域の知られざる活動や面白い場所)
- ⑤CROSS TALK よこすか (市民協働審議会委員長のコラム)

令和7年度第1回
市民協働審議会資料より

4 読者ターゲット

広報する内容	読者ターゲット	効果 (ターゲットに期待すること)
公益団体の魅力	①地域貢献に関心がある企業 ②協働が期待できる行政機関	公益団体のファンになってもらう ・協賛 ・活動の場所の提供
	③公益活動に関心がある市民	公益団体のファンになってもらう ・メンバーとなる
支援制度の魅力	④支援を求める公益団体	制度を活用してもらう

5 発行スケジュール・配布場所

年2回発行 / 第1号は2025年10月頃発行予定(第2号は2026年3月頃発行予定)

発行部数 / 12,000部 ※WEB版やSNS等の発信も併用

配布先 / 市内事業所 (約5,500か所へ送付)

配架場所 / 市の施設 (約40か所)、配架協力事業所 (配架について協力依頼)

6 第1号発行記念イベントについて

第1号発行記念として、以下を目的とし、取り上げた団体をメインに、その他参加希望団体、企業、市民が参加できる交流会を行う。

- 〈目的〉
- ・広報紙そのもののPR
 - ・団体と読者ターゲット (企業、行政、市民、団体) のマッチング
 - ・メディアへのPR